

北海道師範塾  
「教師の道」

# 塾頭通信

第456号 平成24年12月14日

## 国民の審判

衆議院選挙の戦いも終盤に入り、熱を帯びて来ました。泣いても笑っても、数日後には結果が出ます。

今回の総選挙は、3年間政権を担ってきた民主党に対する国民の審判がどのように下るといふ事が大きな関心事ですが、それだけではなく、これまで何かと話題を提供して来た第3極の勢力がどうなるのかも興味のあるところです。

各報道機関の予想によれば、今のところ自民党が圧勝する勢いのようなのですが、結果はどうなるのでしょうか。

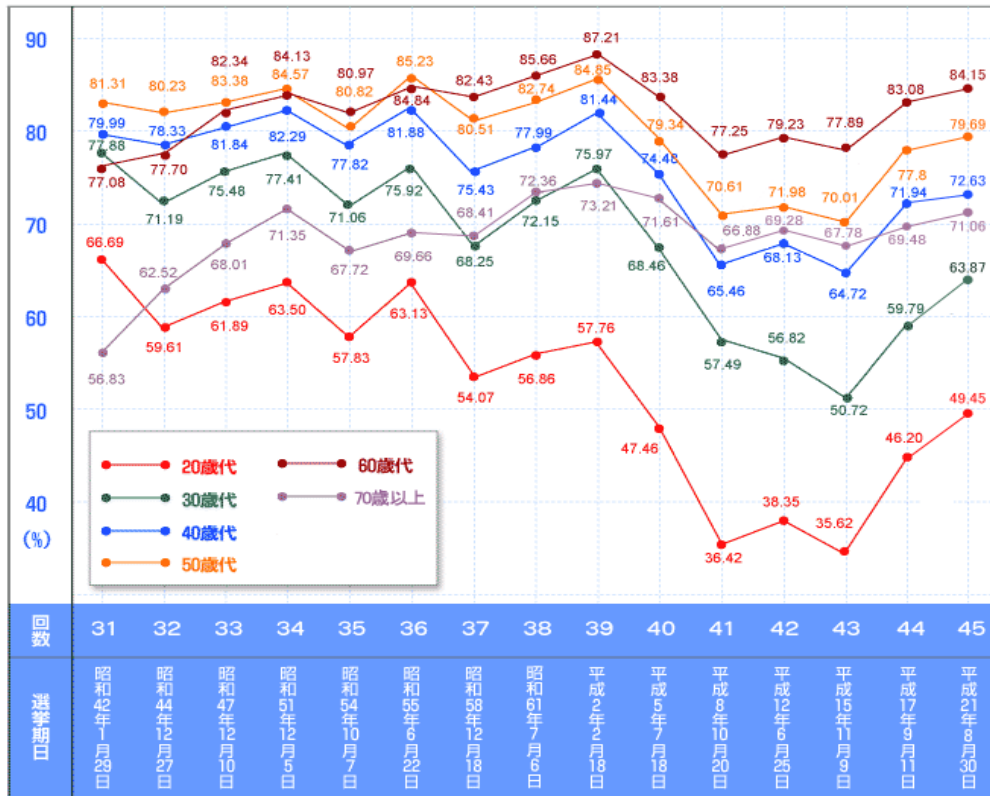
国民の一人としては、結果がどうあれ、日本の難局を脇に置いて政局に明け暮れるような愚を避けていただきたいと思っています。そして何よりも、国民の将来に関わる様々な問題に対して、しっかりと議論し、その上で決断すべき事を決断し、責任を取る、そういう政治であって欲しいと願っています。

もっとも、政治家を批判する前に、そういう人を国会に送り込んだのは国民であることも忘れてはなりません。中には、「自分は投票していないから、責任はない」と思っている人がいるかもしれませんが、それは大きな間違いです。

選択には積極的選択と消極的選択があり、実際に投票した人は特定の候補者を積極的に選択したという事になりますが、棄権した人は、一見誰も選ばなかった様に見えますが、実は、他者の選択に従うという選択をしている事になります。自分の知らない内に、重要な選択をしている訳で、結果が出てから幾ら不満を述べても手遅れです。

さて、下表は、過去の衆議院選挙における年齢別の投票率を表したグラフ（明るい選挙推進協会資料）です。

衆議院議員選挙年齢別投票率の推移



この表を見ても分かるように、50代、60代の投票率は比較的高いのですが、20代、30代が低い事、特に20代の皆さんの投票率が50%以下というのは、非常に残念に思っています。

この機会に、過去の選挙を少し振り返って見る事にします。

・平成15年の第43回総選挙

この時の選挙は「マニフェスト選挙」と呼ばれたように、国政選挙で初めてマニフェストが掲げられました。各党が、国民の選挙離れに危機感を抱いたせいかも知れません。

また、選挙の結果は、自民党や公明党などの与党勢力が絶対安定多数を確保しましたが、民主党と自由党が合併してできた新民主党が177議席を確保し、野党としては過去最大の勢力となりました。

・平成17年の第44回総選挙

この時の選挙は「郵政選挙」と呼ばれているものです。当時の小泉総理は、郵政民営化法案が参議院で否決された場合解散すると明言し、実際に参議院で法案が否決されるや国民の信を問うとして解散しました。

この選挙では、自民党は郵政民営化に反対する議員に対して「刺客」送り込むという、まさに仁義なき戦いが繰り広げられ、結果は自民党、公明党の圧勝に終わりました。

・平成21年の第45回総選挙

この時の選挙は、政権選択の選挙といわれ、変化への予感が国民の投票行動にも影響を与えたのでしょうか、高い投票率となりました。

この選挙によって、民主党は300議席を超える議席を確保、圧倒的な勝利を得て政権を自民党・公明党から奪取しました。

私達は、国民の投票によって初めてドラスティックな政権交代を経験することになり、小選挙区制という選挙制度の力を、改めて実感させられました。

こうしてみると、一人ひとりの1票は誠に小さく、頼りないものではありませんが、これが、国民の意思として表出された時、非常に大きな力を持っている事が分かると思います。

たかが1票、されど1票なのです。

今回の選挙において投じられた1票は、やがてブーメランのように自分達の身にはね返って来ます。

投票は、国民が直接国政に参加する数少ない機会です。この貴重な機会を、棄権という行為によって無駄にして欲しくはありません。塾頭：吉田 洋一)